川崎病不全例の研究

（分担研究：川崎病のサーベイランスとその解析に関する研究）

尾内善四郎、古庄巻史、加藤裕久

［要約］１～２主要症状のみで冠動脈障害を合併する不全型川崎病や症状の持続・出現時期の異常な非定型例の報告もある。そこで、不全型および非定型例の診断、治療、予後を明かにする目的で、後方視的に多施設調査を開始する。

［見出し語］川崎病不全例
川崎病非定型例
川崎病非典型例

［研究方法］①班員の施設を中心に調査を行う。②施設への郵送調査は第12回・13回の川崎病全国調査のマスターファイルを中心に、確実Ｂと容疑例（１５％）、および報告外症例も拾い上げる。③調査表には次の項目を設定する。

・主要症状の持続　・主要症状の非典型的出現
・他の症状（ＢＣＧ部位の発赤、関節炎、胆嚢炎）　・検査所見　・川崎病疑の決定病日
・ガンマグロブリン投与のレスポンス
・心合併症（冠動脈瘤、弁膜炎、心筋炎、心膜炎）　・心後遺症

［考察］川崎病の診断は主要６症状中５項目、あるいは４項目に冠動脈の拡大性病変を認めるものとされている。しかし１～２症状のみで冠動脈障害をみる例もあり、この不全例（容疑例）は第12回・13回の川崎病全国調査で約10～11％登録されている。

不全例に関する川崎病加藤班の報告では典型例に比べて年令に関し、乳児発症が多く、また受診日に関しては遅く、ガンマグロブリン投与頻度が低く、冠動脈瘤の大きさも小さいとの結果であった。

このように症状の少ない不全例の他に、非典型例をして、症状の持続・出現時期の異常な非定型例の報告もみられる。

そこで、不全例（主要症状４項目＋冠動脈拡大例も含む）および非定型例の実態を調査し、その頻度、診断、治療、予後の

尾内善四郎　京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門
古庄巻史　京都大学小児科
加藤裕久　久留米大学小児科

検討を要する。

[文献] 1．尾内善四郎、糸井利幸、他：
川崎病の不全例の臨床像と短期予後．
厚生省心身障害研究 小児の心身障害予防
治療システムに関する研究．平成6年度
研究報告書p.41-43．平成7年

2．Rowley AH, Gonzalez CF, et al :
Incomplete Kawasaki disease with
coronary artery involvement in
Kawasaki disease (Shueman ST ed.)
p357-365, Alan R Liss, NY, 1987

3．粟谷 豊、福田龍子、他：胆嚢腫大を
伴ったMCLSの3症例．小児科臨床、1978
; 31: 771-783

Abstract

"The Study of atypical Kawasaki
disease"

Onouchi Z,[1] Furusho K,[2] Kato H,[3]
Kawasaki disease does not always manifest
itself in the typical fashion, and atypi-
cal Kawasaki disease does not always
reveral benign prognosis without the
potential, life-threatening cardiovascular
complications. Retrospective, multicenter
study of atypical Kawasaki disease started
with special respect to its diagnosis,
prognosis and treatment.

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

[要約]1～2 主要症状のみで冠動脈障害を合併する不全型川崎病や症状の持続・出現時期の異常な非定型例の報告もある。そこで、不全型および非定型例の診断、治療、予後を明かにする目的で、後方視的に多施設調査を開始する。